

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	1472101219
法人名	有限会社 上野興業
事業所名	グループホーム 華花
訪問調査日	平成20年12月11日
評価確定日	平成21年2月17日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

### 項目番号について

外部評価は30項目です。  
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]  
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]  
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]  
「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1472101219		
法人名	有限会社 上野興業		
事業所名	グループホーム 華花		
所在地 (電話番号)	神奈川県鎌倉市笛田4-1-36 鎌倉山エレガンス笛田201 (電話) 0467-32-0988		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成20年12月11日	評価確定日	平成21年2月17日

## 【情報提供票より】(20年11月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	13 人	常勤 3人、非常勤 10人、常勤換算 4.5人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	4 階建ての 2 階 ~ 3 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円
敷金	有( ) 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり (1,400 円)			

### (4) 利用者の概要(11月20日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名	
要介護1		0 名	要介護2		2 名	
要介護3		2 名	要介護4		1 名	
要介護5		1 名	要支援2		0 名	
年齢	平均	87 歳	最低	84 歳	最高	90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	鎌倉常磐クリニック、伊藤歯科
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>このホームはJR鎌倉駅からバスで12分、バス停より徒歩で2~3分、バス通りから一本入った静かな住宅地の中にある。 法人代表者の父親が介護施設を利用した経験から始めたホームで、家庭的な雰囲気、家族的な温かいケアを大切にしている。 医療面では協力医の指導、アドバイスを尊重し、入居時の診断からターミナルケアまで全面的に支援を受けている。訪問リハビリテーションも利用している。 地区の商店会に加入してバザーに出店し、地区の祭りや餅つき、防犯パトロールに参加し、未就学児童向けに絵本の読み聞かせ会を開催するなど、地域の人と交流をしている。近隣の中学校の生徒が職場体験に訪れ、小学校の合唱部の生徒が遊びに立ち寄ってくれる。</p>
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価では、改善課題はなかったが、小さな気づきなどは職員で話し合い、その都度改善に取り組んだ。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は事務担当者が作成し、ミーティングで職員の意見を聞き、管理者がまとめた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は年に3回のペースで開催している。 参加メンバーは、商店会副会長、民生委員、市役所職員、地域包括支援センター職員、利用者家族、管理者、職員などである。 会議では、ホームの現状報告や介護保険の説明をするほか、認知症のケアなどについて話し合っている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族会はないが、年に数回、初詣、物産展見物、屋上でのバーベキューパーティーなどの行事に家族を招待し、家族間の交流と家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。要望などはその都度解決している。苦情、不満などは出ていない。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地区の商店会に加入している。バザーに出店したり防犯パトロールに参加して、地域の人と交流をしている。地域のお祭りではお神輿や、餅つきを見物している。 近隣の中学校の生徒を職場体験で受け入れたり、小学校の合唱部の生徒が来てくれたりしてる。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分の生活スタイルに合わせ、自分の家にいるかのような、住み慣れた家庭的な雰囲気、落ち着いた生活ができるように支援しよう、という運営方針に基づき「ゆっくり、のんびり、にこにこ」という理念を掲げている。開所時に職員が皆でつくりあげたものである。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	サービスの提供場面で現場が忙しく、職員があわてている時などに、管理者やそばに居合わせる職員が、一呼吸を置いて「ゆっくり、のんびり、にこにこ」と小さな声で伝えて、理念を共有している。ミーティングや申送り時にも職員間で話し合い、再確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の商店会に加入し、バザーに出店したり防犯パトロールに参加して、地域の人々と交流をしている。お祭りではお神輿や、餅つきを見物している。近隣の中学生が職場体験で訪れたり、小学校の合唱部員が立ち寄ってくれることもある。管理者と職員が毎月、行政センターで未就学児童を対象に絵本の読み聞かせ会を開催している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は事務担当者が作成し、ミーティングで職員の意見を聞き、管理者がまとめた。 前回の外部評価では改善課題はなかったが、小さな気づきなどはその都度、職員で話し合い改善に取り組んでいる。		外部評価を受審するにあたり、運営者、管理者、職員で、評価の意義や狙いについて話し合いをし、さらに自己評価の作成に当たっては職員全員で取り組み、気づきを集約することを期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年に3回のペースで開催している。参加メンバーは商店会副会長、民生委員、市役所職員、地域包括支援センター職員、利用者家族、管理者、職員などである。会議ではホームの現状報告や介護保険の説明をするほか、認知症ケアなどについて話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所担当者とは報告書の提出時に現況報告や情報交換を行っている。空室がある時には入居者相談をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には利用者の日頃の暮らしぶりや、最近の心身の状況などを報告している。毎月の請求書に近況の手紙や写真を同封している。体調の急変時は電話で連絡している。金銭については月1回、出納帳のコピーとレシートを家族に送付して報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが、年に数回、初詣、物産展見物、屋上でのバーベキューパーティーなどの行事に家族を招待し、家族間の交流と家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。要望はその都度、解決している。苦情、不満などは出ていない。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員には利用者の身内や近隣の住民が多く、急用時の勤務交代の場合などにもお互いに協力する仲間意識が高く、職員の離職は少ない。体調不良などでやむを得ず退職した職員が遊びに来て利用者として過ごし、利用者へのダメージの防止に役立っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画は立てていない。県や市の研修やセミナーの案内を見て、職員は自主的に受講している。テーマは衛生管理、レクリエーション、認知症ケアなどである。受講後はミーティング時に口頭で報告している。		職員を段階に応じて育成できるよう計画的な研修の実施を期待したい。受講後は口頭による報告と併せて、報告書と研修資料を回覧し、研修内容を全職員で共有すること、また、研修資料を職員がいつでも見られるように事業所内に保管するなどの工夫が望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に加入し、情報交換をしている。地元のNPO法人かまくら地域介護支援機構に加入し、セミナーや交流会に管理者及び職員が参加している。また同機構の相談員が来訪し、外部の目で気のついた事項のアドバイスや意見を言うってくれるので、参考にしている。セミナー等で知り合ったホームとは、相互訪問しサービスの質の向上に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染むよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者の家族にはまず見学してもらい、協力医の鎌倉常磐クリニックが利用者の主治医と医療情報を交換して了解が得られた後に、入居を決めている。最初の3ヶ月間は協力医のアドバイスを受けながら、職員は利用者が早く馴染むように、利用者の輪に入れるように試行錯誤を重ねながら、家族とも相談して工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理の得意な利用者が味見をしたり、日本舞踊を長年たしなんだ利用者が和服を着て踊ることもある。お花の先生をしていた利用者が、生け花を再開してADLが上がった事例もある。若い職員は箸の置き方、お茶の出し方などの作法を教わり、育児中の職員は子育てを教わり、「頑張って」と激励されている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時のアセスメントで利用者の趣味、嗜好、希望などは把握している。職員が聞かなくても、ケーキを食べたい、肉だ魚だと希望を言う人、大半の意思をボディランゲージで表明する人もいる。病院から入居した直後で、あまりしゃべらない人には話の輪に職員が入って、コミュニケーションを誘導している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、ケアマネジャーがケア記録や申し送り、医師の診断記録などを読み込み、本人、家族の要望を聞いた上で原案を作成し、全職員が参加するミーティングで「施設サービス計画書」を完成させている。その上で家族に説明して同意を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画については毎月のカンファレンスでモニタリングを行っている。通常は3ヶ月毎に見直しをしている。心身の急変時には、本人、家族、職員で話し合い、医師等の意見も参考にして新たな介護計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	歯科医は毎週往診して口腔ケアをしてくれる。内科は協力医のクリニックが生活リハビリの一環として通院を勧め、職員が通院介助をしている。訪問リハビリを利用し、機能訓練やマッサージの支援もしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、歯科は入居時から協力医療機関の受診を勧め、現在は全員が受診している。利用前のかかりつけの眼科や皮膚科などは、職員が介助して通院している。通院の都度、家族と話し合い医療情報を共有している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、医師と家族と職員で話し合いを行い、ケア方針を相互で確認している。終末期には協力医が毎日往診をしてくれる。ターミナルケアは4件の実績があり、外部で事例発表をしている。		ターミナルケアについては関係者で話し合いをして、方針を確認しているが、ターミナルケア対応指針等を明文化し、話し合いやターミナルの経緯についても記録に残すことが望まれる。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者には丁寧な言葉遣いを心がけている。トイレ誘導は他の人に聞こえないように、時にはボディランゲージを利用するなどの工夫をすることもある。個人情報の含まれる書類は鍵のかかる書棚に保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間も就寝時間もそれぞれの自由になっている。利用者がしたいこと、希望を個別に聞いている。外出が好きで、1日1回は買い物や散歩で出かける人もいれば、室内が好きであまり出たがらない人もいる。夕食後にビールや梅酒を楽しむ人もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物から献立づくりを職員と一緒にすることもある。食事の準備、調理、片付けも手伝っている。職員も利用者と一緒に同じ食事を取りながら、介助をしたり食べることを促したりしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は特に時間を定めず、入りたい時に自由に入浴できる。平均的な入浴回数は週に2～3回である。入浴が好きでない利用者は年配の職員が上手に誘導している。やむを得ず入浴の間隔が空いてしまう時は清拭をしている。季節により、柚子湯や菖蒲湯を楽しむこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物畳み、食事の準備・後片付け、草花への水やり、生花を活けるなど、それぞれが役割を自覚しながら、張り合いを持ったり、気晴らしをしたりしている。猫が好きな利用者には猫の面倒を見てもらうなどそれぞれの得意なこと、好きなことを引き続き継続できるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、なるべく散歩に出たり、買い物に行ったりしている。近所の喫茶店には、よく散歩がてら出かけている。春は花見やバラ展に、夏はデパートの物産展や、土用の丑の日にうなぎを食べに行くこともある。歩行困難な方は車イスで出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は平時はかけないようにしている。入居間もない、慣れない利用者の安全が確認できるまで、かけることがある。居室を出る時に、他の人が入らないよう施錠する利用者もいる。近隣の交番に入居者の名前、年齢、特徴などを知らせ、見守りをお願いしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導で年2回定期的に、消防訓練を行っている。内容は消火器の使い方、避難訓練などである。この他年1回救急救命の講習で心肺蘇生法の実習を受けている。職員に近隣居住者が多いこともあり、地域と連携が取れている。消防署直結火災報知器とスプリンクラーが設置されている。災害用の食料、水、備品が備蓄されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録表に記入している。水分は多めに摂っており、医師からの指導も特にないので、記録はしていない。管理栄養士である職員が定期的に、献立を見て栄養の専門的なチェックをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の2、3階と屋上をグループホームとして使用しており、移動は階段を利用するが、段差が低く滑り止めが貼られ、手すりが取り付けられ安全である。道路に面しているが車の往来は少なく、屋内は静かである。窓からは周囲の小高い山が見え、屋上からの眺望も良く、季節を知ることができる。居間や廊下などに絵画や室内装飾品が飾られ、隅々に草花が生けられ、家庭的な温かみを感じられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、備え付けのベッドの他は、たんす、鏡台、イスなどの使い慣れた家具や人形、ぬいぐるみ、家族の写真、位牌などの思い思いの品が持ち込まれて、安心して過ごせる場所となっている。		



# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有限会社 上野興業
(ユニット名)	グループホーム 華花
所在地 (県・市町村名)	鎌倉市笛田4-1-36 鎌倉山エレガンス笛田201
記入者名 (管理者)	岩壁 恵
記入日	平成20年11月20日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>昨年11月から通所介護を始めたので、近所の高齢者さんに紹介しています。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>毎年外部評価を実施して、その都度改善に取り組んでいます。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>なかなかみなさんの予定が合わず、時間の調整に苦労しますが、このような機会を設けて、お互いの理解が高まったように思います。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>鎌倉市役所の方々にはいつもお世話になっていて、よく顔を合わせることで、いろいろなことがスムーズに進んでいると思います。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>以前このような制度を利用して入居された方がいたので、職員も知識を得ています。今後もより良い支援ができるようミーティング時などに勉強する機会を設けたいとおもいます。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>各自セミナー等に参加し、ミーティング時に話し合い知識を共有できるようにしています。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は書面を読み交わし、十分納得していただいた上で契約していただいています。解約時も退去後のケアも含めて対応しています。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に苦情に関して記載してあります。直接職員に言って下さった場合は迅速に対応しています。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月健康チェックに行っているため、ご家族がお見えになったときに報告しています。金銭に関しては、利用者ごとのお財布を預かっており、月ごとに利用明細のコピーを送付しています。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に苦情に関して記載してあります。直接職員に言って下さった場合は迅速に対応しています。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>離職者が少なく、現在の職員も長期に渡り勤めてくれているので、意見の反映ができていますのだと思っています。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況によっていつもより多く職員を配置したり、場合によってはベッドをリビングに移動してケアしています。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者のなかでは職員の名前を覚えている方もいるので、良い環境を作れていると思います。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	セミナーや研修には積極的に各自で参加しているので、時間の調整等スキルアップに協力しています。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	お互いの施設を見に行ったり、管理者どうし交流をもったりしています。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	1対1で話す状況をさりげなく作り、その会話の中から近況を読み取りストレス軽減に取り組んでいます。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員が得意とすることをどんどんお願いしているので、そのことが自信につながりみんないきいきしています。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居を決めるまでに本人は当然ですが、家族ともよく話し合い決めていきます。入居後も何か不安やわからないことがないか聞き、希望に添えるよう努力しています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居を決めるまでに本人は当然ですが、家族ともよく話し合い決めていきます。入居後も何か不安やわからないことがないか聞き、希望に添えるよう努力しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望に極力答えられるよう努力しています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居が決まる前に一度本人に事業所に来てもらい、他の入居者の方たちと会って頂いています。一緒に食事をしたり、リビングでくつろいだりしているのをご家族・職員ともに見て今度の対応を考えたりしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の介護をしているけれども、人生の先輩ですから教えてもらうことはとても多いです。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のみなさんのケアも大切なことだと職員全員が認識しているので、良い関係を築けていると思います。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の本人と家族の関係を良く把握し、より良い関係が築けるよう考慮しています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人の部屋には自宅から持ってきた家具や写真を置いたりしています。日頃の会話の中で出てきたお寺をみんなで散策したりするととても嬉しそうです。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握して食事の席を工夫するなど、みんなが楽しく過ごせるよう配慮しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	すでに退去されたご家族でもBBQにお誘いしたりしています。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	おおよその希望は把握していて、実現できていると思います。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との日常会話やご家族から聞いた話しなどで、今までの経緯を把握するよう努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者との会話や、その日の行動等をよく見て現状把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の希望と職員のケア方針が合致するように、ミーティングで話し合い、介護計画を作成しています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	健康状態が悪化した場合はすぐに本人・家族・関係者と話し合い、より良いケアを提供できるよう話し合い、介護計画に反映しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のファイルに生活記録を書き込むことになっていて、職員はそれを読み利用者の状態を把握しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	機能訓練やマッサージなどいろいろ取り入れています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の読み聞かせの会に入居者の方が参加させて頂いたり、小・中学校の生徒さんが来てくれたりしています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	生活状況がグループホーム合わない方は他の事業施設を紹介するなどしています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただいているので、アドバイスをもらったり協力しあっています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居決定より提携病院の検診を受けていただいているので、良い関係と適切な医療を受けていると思います。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携病院の検診時にケアについて相談したり、病状によっては他の病院を紹介してもらったりしています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎月の健康チェックで、日常の状態や健康面など把握してくださっています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院後も病院と連絡をこまめにとりあい、グループホームで快適に療養していただけるよう努力しています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	先生に終末期と判断された場合はすぐに先生・家族・職員で集まり今後の方針を話し合っています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の利用者がいる時は、提携病院のお医者様が毎日往診して下さいます。最後まで良い日々が送れるよう職員は話し合い、工夫しています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み慣れた環境から違う環境へ生活が変わるのは入居者にとっても、家族にとってもストレスのかかることなので、十分話し合いストレスが少しでも軽減されるよう努めています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	丁寧な言葉遣いは日々心がけています。個人情報は一箇所にとまとめて保管しています。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者と職員とのコミュニケーションを大切にし、何度でも話したり、紙に書いたりしてお互い納得して快適に過ごせるよう心がけています。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日同じことをするのではなく、入居者の状況に応じてサービスを提供しています。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人が行きたいときに、近所の美容院まで散歩がてら行っています。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立を利用者に決めてもらうこともあります。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	病院で止められていない限り、自由に楽しんでいただいています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	こまめにトイレ誘導や声掛けをして、失敗してふさぎ込むことのないように支援しています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特に時間は定めず、入りたいときに入浴できます。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間でも眠りたいときは自分の部屋やリビングでもお休みになれるよう支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	猫好きの方には猫の面倒をみてもらうなど、それぞれの得意なこと、好きなことを引き続き継続できるよう支援しています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から各々お金をお預かりしていて、保管は事業所ですしていますが、基本的には自分が使いたいときに使えます。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の喫茶店に散歩がてらでかけています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	天気の良い日にはみんなで鎌倉散策にでかけたり、デパートの物産展にでかけたりなど、割合出かける機会が多いと思います。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時折息子さんに電話をかける方がいるのですが、数分の会話によって心が安らかくなるようです。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪してくださった方がリラックスできる空間・雰囲気作りを心がけています。		
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する書面を作成し理解を深めています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることに対しては、臨機応変に対応しています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者6名のプライバシーを守りつつ、様子・所在を把握しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	張り紙をするなどして注意を呼びかけています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒しないよう家具の配置に気をつけ、薬は職員が管理しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の方に救急救命の講習をしていただいたり、各職員でセミナーに参加しています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の方に来ていただき消防訓練や救急救命の講習をしていただいています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族と連絡を取り合い、利用者に快適かつ自由に暮らしていただけるよう対策を話し合っています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員が気付いたことは引継ぎノートに記入して職員同士情報の共有に努めています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者に服薬について質問されて、答えられるように配慮しています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘気味の方には、水分摂取に気を配ったり、お散歩に誘って体を動かしてもらおうようにしています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きを励行しています。毎週火曜日に歯科医院さんに来ていただき口腔ケアをしてもらっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ではなかなか食べることができない利用者には職員がつくなどして栄養摂取と水分量に気をつけています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いとうがいの励行、毎年インフルエンザの予防接種を利用者・職員とも受けています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	常に清潔を保ち、食材の管理に気をつけています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<華花>という名のとおり、いたるところにお花があります。玄関も普通の家と変わらないので出入りしやすいと思います。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花や、季節ごとの室内装飾をかざり、家庭的な雰囲気作りを心がけています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテレビ・雑誌・ゲーム・新聞が置いてあり、ソファでお昼寝するなど思い思いの時間を過ごされています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたものを部屋に置いたり、部屋をかわいく飾り、居心地良い空間作りを心がけています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気を行ない、清潔を心がけにおいの元は早めに取り除くよう努力しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや滑り止めマットを設置し、つまずいて転倒しないように家具の配置に工夫をしています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できることは自分でしてもらうことで、ADL低下を防止し、利用者なりの自立した生活を継続できるよう支援しています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	現在屋上に藤棚を作っています。四季折々の花を植えてガーデニングを楽しむ予定です。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)